

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】

毎年調査結果票 2008 (平成 20) 年度


| | | | |
|---------------------|--|----|-------|
| (1)サイト名 | 松川浦 (福島県相馬市) | 略号 | TFMTK |
| (2)海域区分 | ④中部太平洋沿岸 | | |
| (3)緯度・経度 (WGS84) | A エリア (鵜の尾) : 37.8219 N, 140.9846 E | | |
| | B エリア (磯辺) : 37.7807 N, 140.9799 E | | |
| (4)調査年月日 | 2008 年 5 月 9 日 | | |
| (5)調査者氏名 | サイト代表者: 鈴木孝男 (東北大学大学院生命科学研究科) | | |
| | 鈴木孝男・安野 翔 (東北大)、上村了美 ((独)水研セ・瀬戸内海区)、 逸見泰久 (熊本大)、久保井喬 (環境省)、飯島明子・中川雅博 (日本国際湿地保全連合) | | |
| (6)環境の概要 | A エリア: 潟湖干潟の通水路に近い位置にあり、入江状になった干潟である。入江の最奥部は泥が混じる。潮上帯には小面積の塩性湿地があり、潮下帯の水路沿いにはアマモ場が広がる。干潟には海苔棚がある。 | | |
| | B エリア: 松川浦の最奥部に位置する干潟で、潮間帯下部は砂泥質となり、一部泥質のところもある。潮間帯上部にはパッチ状の狭いヨシ原が存在する。小河川の流入があり、ところどころに小規模のイガイ礁が見られる。シギ・チドリ類が比較的高頻度で採餌に訪れる干潟である。 | | |
| (7)底生生物の 概要・特徴 | A エリア: 腹足類、多毛類、甲殻類の出現数が多く、多様性豊かな干潟である。干潟一帯でホソウミニナが優占したが、マツカワウラカワザンショウ (未記載種) やコメツキガニも多かった。また、ウミニナ、ユウシオガイ、ソトオリガイ、ツバサゴカイ (棲管) 等の希少な種も出現した。ヨシ原にはアシハラガニ、カワザンショウガイ類が見られた。 | | |
| | B エリア: ホソウミニナとマツカワウラカワザンショウが優占するほか、イソシジミとオキシジミが多かった。以前には認められなかったカワアイとフトヘナタリが少数ではあるが出現した。また、カワゴカイ属の 1 種をはじめとして多毛類の多様性が高く、ミズヒキゴカイ等汚染に強い種も認められた。端脚目ではニホンドロソコエビが多く出現した。潮間帯下部の砂泥質～泥質のところにはムラサキイガイからなるイガイ礁が点在していた。 | | |
| (8)その他特記 事項 | A エリア等、北部の干潟では、輸入アサリとともに持ち込まれた外来種サキグロタマツメタの生息が確認された。アサリの潮干狩場周辺では秋に卵塊の除去等、駆除を行っているが、生息数が減少するまでには至らないようである。また、外来種のシマメノウフネガイがスガイやコシダカガンガラの殻上に付着しているのが観察された。A エリアではアナアオサの打上げが多く、その下は嫌気的な環境になっていた。 | | |

* (独) 水研セ=独立行政法人水産総合研究センターの略

調査地の地図

| | |
|--|---|
| | <p>位置図 (広域地図)</p> <p>円内に調査地がある。</p> <p>上：Aエリア (鵜の尾)</p> <p>下：Bエリア (磯辺)</p> <p>スケールは 5 km を示す。</p> |
| | <p>位置図 (詳細地図)</p> <p>A エリア</p> <p>円内に調査地がある。</p> <p>左：潮間帯下部 (AL)</p> <p>右：潮間帯上部 (AU)</p> <p>スケールは 1 km を示す。</p> |
| | <p>位置図 (詳細地図)</p> <p>B エリア</p> <p>円内に調査地がある。</p> <p>左：潮間帯下部 (BL)</p> <p>右：潮間帯上部 (BU)</p> <p>スケールは 1 km を示す。</p> |

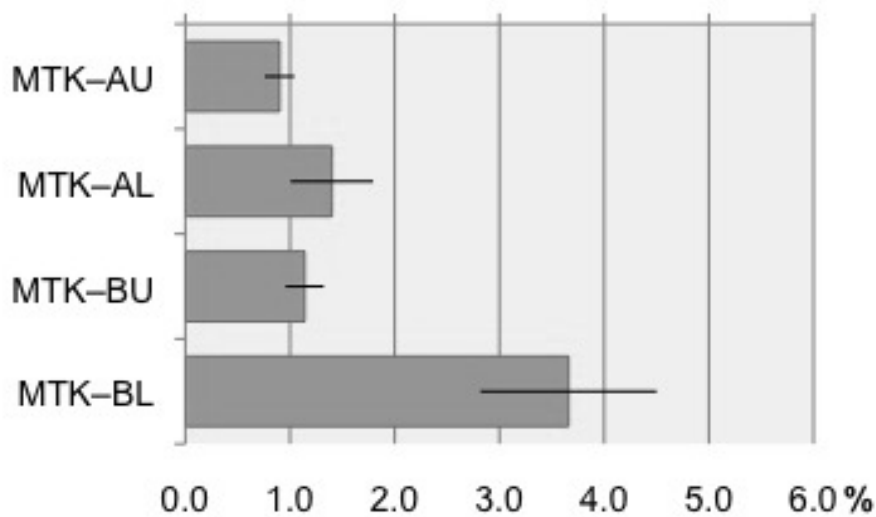
調査地の景観、生物写真等

| | | |
|---|---|--|
|  |  | |
| <p>Aエリア (鵜の尾)</p> | <p>Bエリア (磯辺)</p> | |
|  |  | |
| <p>ホソウミニナ</p> | <p>マツカワウラカワザンショウ</p> | |
|  |  |  |
| <p>カワアイ</p> | <p>ヤミヨキセワタ</p> | <p>フトヘナタリ</p> |

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】

5 年毎調査結果票 2008 (平成 20) 年度

| | | | |
|--------------------|--|----|-------|
| (1)サイト名 | 松川浦 (福島県相馬市) | 略号 | TFMTK |
| (2)海域区分 | ④中部太平洋沿岸 | | |
| (3)緯度・経度 | A エリア (鶉の尾) : 37.8219 N, 140.9846 E | | |
| | B エリア (磯辺) : 37.7807 N, 140.9799 E | | |
| (4)調査年月日 | 2008 年 5 月 9 日 | | |
| (5)調査者氏名 | サイト代表者: 鈴木孝男 (東北大学大学院生命科学研究科) | | |
| | 鈴木孝男・安野 翔 (東北大)、上村了美 ((独)水研セ・瀬戸内海区)、 逸見泰久 (熊本大)、久保井喬 (環境省)、飯島明子・中川雅博 (日本国際湿地保全連合) | | |
| (6) 底生生物の 概要・特徴 | A エリア: 30 種が出現した。A エリア全体ではホソウミニナが優占しており、潮間帯上部ではイソシジミとコメツキガニが多産した。一方、潮間帯下部では多毛類の多様性が高く、中でもドロオニスピオやイトゴカイ科の 1 種が多く出現した。また、ニホンスナモグリが比較的多く生息していた。 | | |
| | B エリア: 24 種が出現した。ホソウミニナが優占していた。全体的に多毛類が多く生息しており、カワゴカイ属の 1 種、ヤマトスピオ、ミズヒキゴカイ、 <i>Heteromastus</i> 属の 1 種等が高密度で出現した。また、端脚目ニホンドロソコエビの密度も高かった。 | | |
| (7) 底土分析 | <p>粒度組成:</p> <p>MTK-AU : A エリア潮間帯上部 ; MTK-AL : A エリア潮間帯下部 ; MTK-BU : B エリア潮間帯上部 ; MTK-ML : B エリア潮間帯下部</p> | | |

| | |
|-------------|---|
| | <p>有機物含量：</p>  <p>0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0%</p> <p>平均値 ± 標準偏差； 略号は粒度組成を参照</p> |
| (8) その他特記事項 | <p>B エリアではアサリの放流が行われたことが無いにもかかわらず、サキグロタマツメタが出現した。本種は輸入アサリと共に持ち込まれた外来種であり、これまで松川浦北部の限られた場所にしか生息していなかったが、全域に分布を広げたものと考えられる。また、マツカワウラカワザンショウ（未記載種）もこれまで北部の砂質域でのみ観察されていたが、本調査では、最奥部 B エリアの砂泥質でも確認された。</p> |

*（独）水研セ＝独立行政法人水産総合研究センターの略